

# 多高通信

第178号 令和2年7月30日発行



さどく ゆたかに たくましく  
宮城県多賀城高等学校

## 総体代替大会・選手権大会が

### 始まります！

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、今年度の総体が中止となってしまいました。7月から夏休みにかけて、3年生の最後の大会となる総体の代替大会や選手権大会が行われます。感染対策の環境として、無観客試合等、応援の制限がかつてしまうため、一般の方々の応援は不可能となっている種目がほとんどかと思えます。

7月18日に予定されていた陸上の大会が急遽中止となってしまったことは記憶にも新しく、まだまだ感染拡大の影響が懸念されます。活動環境が限られ、満足な練習ができないかもしれませんが、選手たちが最後まで悔いなく戦い抜くことができるよう、健闘を祈るばかりです。

#### ☆各種目の試合日程

- 7月**
  - 18日 ソフトボール 選手権大会
  - 18日 ソフトテニス 仙塩地区大会
  - 23日 ソフトテニス 代替大会
  - 23日 テニス 代替大会
  - 29日 バドミントン 新人大会一次予選
- 8月**
  - 1日 柔道 代替大会(個人)
  - 1日 ソフトボール 仙台市大会
  - 2日 卓球 代替大会
  - 6日 卓球 全日本卓球ジュニア
  - 8日 水泳 代替大会
  - 8日 バドミントン 代替大会
  - 8日 テニス 県選手権大会
  - 9日 陸上 代替大会

- 9日 柔道 代替大会(団体)
- 17日 男子バスケット 選手権大会一次予選
- 19日 女子バスケット 選手権大会一次予選
- 22日 陸上 県選手権大会
- 22日 ソフトテニス 夏季大会
- 30日 ラグビー 全国大会予選

## 3学年 課題研究ガイダンス

6月16日、3学年課題研究ご意見番である東北工業大学の菅原景一先生に Zoom を通してお話ししていただきました。これまでの研究成果を研究要旨にする方法や、見やすい図について教えていただきました。



東北工業大学と zoom で中継しました

生徒の感想  
○グラフや表は作り方や見せ方によって印象が違ってくるなど思いました。何パターンか作ってみて見やすいものを使ってみたいと思います。  
○読む人のことを考えて書くことが大事なんだなと改めて思いました。私は入試で課題研究の内容を発表するつもりなので、参考にしたいと思います。

## 野球部 代替大会報告

■マネージャー 3年7組 加川心愛(高砂中出身)  
新型コロナウイルスの影響で、3月から約3か月間も練習ができない期間が続く、その期間中に甲子園の中止が発表されました。6月から練習は再開されましたが、私は何を目標に活動すればよいのか分からずにはいません。そんな中、代替大会の開催が決定され、明確な目標ができたことで、練習に活気が戻ってきました。試合前日まで雨が続き、万全とは言えない状態での試合となりました。選手たちは最後まで決してあきらめずに戦ってくれました。結果は負けましたが、周りでは受験勉強に切り替える人が増えている中で最後まで部活に取り組んでくれた3年生の選手たちには感謝しきれないほど感謝しています。

この代替試合を開催するにあたって、携わってくださった大勢の皆さんや、私たちを今まで支えて下さった先生方や保護者の方々に、試合を通して感謝の気持ちを伝えることができました。  
これからは、3年生は各自の進路目標の達成に向けて、残された1・2年生は次の大会に向けて、それぞれ目

標は異なりますが、ひたすら努力を重ねていくことに変わりはありません。私たち3年生は受験の面でのよい報告ができるよう、野球部で過ごした思いを胸に、受験勉強に専念していきたいと思えます。

1・2年生は、これからは少人数の活動になってしまいますが、選手全員でお互いを支え合い、どんな辛いことでも乗り越えていけるチームを作っていってほしいと思います。

#### ■部長 3年6組 芳賀友来(多賀城二中出身)

毎年開催されている春の大会、夏の大会の中止が発表され、この時の私はただただもどかしい気持ちでいっぱいになっていました。きっと部員の皆も同じ思いだったことでしょう。このまま自分たち3年生の高校野球が終わってしまうのかもしれないと思っていましたが、代替大会が開催されることになり、素直にうれしい気持ちでいっぱいでした。部活動の再開から大会まで1か月ほどの時間しかありませんでした。最初の頃は、あまりに久しぶりの部活動で、雰囲気がいまいちよくなくプレーの乱れが全体的に見られました。その中で、3年生を中心に積極的に声を出し、雰囲気が明るくなっていき、新1年生もすぐに慣れてくれました。後輩には、3年生のサポートではなく、自分が試合に出て活躍するという強い気持ちで日々過ごしてほしいと伝えていたのですが、その思いに伝えるように、プレーや部活に対する姿勢で、チーム全体をしっかりと盛り上げてくれたのは本当に心強く感じました。

試合当日、自分たちは、これまでお世話になった方々全員、そして、この大変な状況の中、大会を開催して下さった運営の方々への感謝の気持ちを胸に、楽しんで試合をし、1試合でも多く勝ちたいという気持ちで試合に臨みました。緊張でプレーに硬さが出てしまい思うようなプレーができず、結果は負けしてしまいました。正直、悔しい気持ちが大きいです。最後にこのチームで野球ができてよかったと心から思っています。

後輩たちは、悔いを残さないようにこれから一日一日楽しんで、真剣に、野球と向き合っていきたいと思っています。今まで応援して下さいました。本当にありがとうございます。これからも多賀城高校野球部の応援をよろしくお願います。



## 多賀城・七ヶ浜巡検に

### 行ってきました！



7月17日、地元の被害や身近な場所での災害というものを改めて見つめ直すべく、災害科学科1年生が多賀城市内・七ヶ浜町をフィールドとした巡検を実施しました。当日は密を避けるため、2班に分かれて移動しました。

両班とも多賀城市立八幡小学校前で八幡地区の津波襲来状況やその後の台風19号の被害等について、区長代理の滝沢さんからお話をいただきました。七ヶ浜町では菖蒲田浜を見下ろす笹山地区に新設された笹山避難所を会場に、当時の被災状況や七ヶ浜町の復興状況や津波避難フラッグについて、七ヶ浜町役場復興推進課の鈴木さんからお話をいただきました。

自然科学と災害B」の中での事前学習を行った後に現地に出向いたことで、それぞれの場所での積極的な質問が飛び交いました。今後の学びへの強い足がかりになってくれることを期待しています。



■1年7組 若山亜莉沙(多賀城二中出身)  
津波について、遠くで起こっていることと少し思っていました。自分の家の本当に近くまで来ていて、改めて恐怖を感じました。また八幡小でのお話で、「これからしていきたいこと」「現在行っていること」を聞き、表示板で警告するだけではなく、伝承できていることも知って驚くとともに、これからも増やしていかなければならないと思いました。

■1年7組 村岡倅白(利府中出身)  
幼いながらもこの災害を経験した私たちは、お話を聞いて納得することができます。しかし、被災経験のない人たちに對してはどう伝わるのだろうかという疑問を感じました。震災から私たちが学んだ知見をどのように活かせば、今後の日本そして世界に貢献できるか、より現実的な視点で考える必要があると感じました。